

平成28年度 自己評価・学校関係者評価表

学校番号	88	学校名	静岡県立浜松工業高等学校 (全日制)	記載者	大瀬 裕市
------	----	-----	-----------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	次の100年に向けた学校の体制づくりに着手する。	全ての学科で授業連携を実施	B	B	工業高校はよくセレクト的と言われる。関係する学科間で話し合い、選択や課題研究等の授業で連携し、多様な生徒の要望に応じてほしい。
		課題研究等での連携と理工情報の具体的な実践	A	A	情報関係教科の内容は、高学年になるに従い、指導内容に関してより学科の専門性が求められる。市販の教科書では足りない部分は、新たな副教材の開発により対応してほしい。
		具体的目標の設定と効率的な教育実践	B	B	大学進学志向の高まりから、工業高校では入学時から進学を目指している生徒が多くなってきている。進路がより多様化している現在、理数工学科に加えて他学科の進学希望者の大学進学に呼応できる学力アップのため教育課程の多様化をさらに進めてほしい。
	天下の浜工生としての立居振舞、プライドを育成する。	挨拶定着度 100%	B	A	浜工生は学校に大きなプライドを持っている。そのプライドが挨拶にも現れている。
実りある講演会の実施		B	B	講演会の講師には、活躍している卒業生を積極的に起用してほしい。テーマによってはその分野のプロを招いたり、保護者にも聴講の機会を設けるなどしてほしい。	
イ	基礎基本の定着を図るとともに、知的好奇心の育成を図る。	学年末での欠点保有科目 第1・2学年 10科目未満 第3学年 0科目	B	B	放課後や長期休暇中等に補習や個人指導の機会を設けるなど、個々の能力に配慮した学習指導を継続してほしい。
		年間平均貸出冊数 2.0冊/人以上	B	B	工業高校生は読書量が不足している。高校時代に好転できるよう指導してほしい。
ウ	生徒会を中心に生徒主体の活動を拡大する。	生徒会が企画した事業の実施	A	A	各種専門委員会、生徒会、部活動などは生徒の自主性が育つ絶好の機会。学校祭や体育大会などを見ると浜工の生徒の質の高さが伺える。

様式第5号

エ	学校ホームページを有効活用し、効果的な広報活動を実施する。	1日の平均訪問回数500回以上	A	A	学校HPは、浜工への進学希望者が学校を知る大切な情報源となっている。動画を取り入れる、プロにアドバイスを受けるなど内容の向上に努力を続けてほしい。
オ	進路課と連携した各学年の緻密な生き方指導の計画を策定する。	就職内定率100% 国公立大学合格者25人以上	B	A	卒業後の進路先に生徒や保護者の満足感が伺える。また、大学へ進学した先輩の活躍から浜工で学んだ成果が見られる。
カ	基本的な生活習慣を保証するための安全かつ安心な学校づくりを推進する。	重大な交通事故ゼロ 軽微な交通事故15件以下	B	B	自転車の乗り方について、正しい乗り方・交通法規を指導してほしい。 自動車から見る自転車の景色を実感できる体験をさせてほしい。
		防災訓練を年間3回実施	A	A	地域は高校生の力を期待している。地域と連携した訓練に積極的に取り組みたい。
		保健室だよりの発行年間10回以上	A	A	食育について、保健室便り等で取り上げてほしい。
		スクールカウンセラー配置年間80時間以上	A	A	近年スクールカウンセリングを活用した事例が増えている。個々の問題の早期発見、早期対応に今後も力を入れてほしい。
キ	本校の教育活動が円滑に展開できるよう環境整備を図る。	営業日のネットワーク稼働率100%	A	A	浜工にはネットワークについてハード・ソフトの知識を十分備えた教員が多く、情報化への対応は信頼のおけるものとなっている。
		「利用しやすい」と回答する生徒80%以上	A	A	全校給食を実施している高校は他に例を聞いたことがない。保護者にとって満足のいく施設である。
		学校の施設（備品・機械）について「満足できる」と回答する生徒90%以上	B	B	他校に比べ老朽化は著しいと感じる。施設ばかりは学校側の努力だけでは解決できないことです。
ク	生徒の意欲を引き出す指導方法を確立する。	授業公開での相互授業参観2回以上 生徒授業アンケート2回以上	B	B	授業参観後に、遠慮のない意見交換ができる雰囲気づくりができれば、学校の授業改善につながると思われる。